

沈金体験で越前漆器を知る

4年生は、12月3日の校外学習で「うるしの里会館」を尋ね、越前漆器の様々な商品や器、漆に関する展示を見てきました。特に子どもたちの興味を引いたのは、越前漆器で作られた美しい山車や工房で職人さんが手作業する様子でした。



12月17日には、越前漆器の職人さんたち9名が来校し、漆器の沈金の作業を体験させていただきました。

沈金は刃物で漆器に絵を彫り、そこに金粉などを埋め込む作業です。今回は、漆を塗った楕円形のプレートに模様を描いていきました。



始めに練習用の小さなプレートに沈金刀（沈金専用のみ）で、線を刻んでみました。慣れてきたところで、あらかじめ準備した下絵をプレートに貼り、プレートの間にカーボン紙をはさみます。鉛筆で下絵を丁寧に描いていくと、絵柄をプレートに写すことができます。

下絵の紙を外して、いよいよ沈金刀でプレートを刻んでいきます。どの子もプレートに顔を近づけて慎重に沈金刀を動かしていました。職人さんから「もう少し力を入れて」「うまく出来ている」とアドバイスを受けながら、刻んだ線をつないで絵柄を作っていました。



この作業が終わると、職人さんのところへ持っていき、仕上げの作業をしてもらいます。



職人さんは、漆をプレートの表面に塗って磨いてから、金粉をまぶします。専用の和紙で表面を磨いて余分な金粉を取り除くと、刻まれた線だけに金粉が残り鮮やかに絵柄が浮き出てきます。子どもたちは、職員さんの作業を食い入るように見つめ、自分が描いた絵柄が浮き出てくると「すごい」などと声を上げていました。越前漆器のオリジナルのプレートが完成すると、友達の作品と見合いながら、どの子も満足そうな表情でした。

